

# 登山月報

平成26年度定時総会報告	1
平成25年度事業報告・収支決算	3
第67回 Mountain World	7
【新連載】北から南から ブロック便り	8
平成26年度氷雪技術研修会、	9
主任検定養成講習会、上級指導員養成講習会	
平成26年度理事会(第1回)報告	10
平成26年度理事会(第2回)報告	11
全国「山の日」制定協議会 勉強会・総会	12
JMA、寄贈図書、編集後記	13

## 平成26年度定時総会報告

5月25日(日)に東京・渋谷の岸記念体育会館で平成26年度定時総会が開催された。

総会に先立ち神崎会長より、以下の挨拶があった。「御存じのように一昨日、衛藤顧問が会長を務められる「山の日」制定議員連盟のご尽力により、「山の日」の祝日化法案が成立した。これを契機に登山の普及・発展に繋げていきたい。公益社団法人となって1年が経過した。登山界のリーダーシップを取る組織として責任及び使命感が重くなった。組織強化の面では、この4月から高体連登山専門部を48番目の山岳団体として迎えることができ、高校生の選手登録も6,000名を超えた。今後は、高体連と一層の連携を図り、共催事業であるインターハイ登山大会や全国高等学校選抜クライミング選手権大会などを盛り上げていきたい。各IFに我が国を代表して加盟する本会は、国際交流も重要な事業の一つだ。そんな中で、今年は11月に広島でU A A A 創立20周年記念総会を開催する。11月23日の前後にかけて「広島山岳平和祭」と銘打って全国登山者集会を開催するので、全国から大勢の参加を期待したい。今後、登山人口の大半を占める未組織登山者とどう向き合っていくのか、ということも本会に課せられた重要な案件だ。全国登山者集会などを通じて未組織登山者のマナー、モラルの向上を図りながら、登山者自身に登山者としての責任を感じていただきたい。」と挨拶。

次いで、出席された各顧問から近況報告を含めた挨拶を頂いた。衛藤顧問からは、子供たちに山に親しんで貰い、故郷の山に登って貰いたい。山との共生、山への畏敬の念などを思っ「山の日」制定の法案作りをした。山岳5団体の力強いバックアップのお陰で「山の日」を制定することができた。これからは「山の日」の意義を広く国民に知って貰えるように活動を展開していきたい、と「山の日」制定の趣意と今後の普及・

啓発活動が述べられた。田中顧問からは、特殊切手「日本の山岳シリーズ(第4集)」の発行が紹介された。

尾形専務理事より総会の成立状況(定款第18条)として、定数61名(定足数31名)、出席者58名、委任3名で総会は成立したと報告された。

議事役員の選出では、定款第16条の規定により神崎会長を議長に選出し、議事録署名人は、定款第20条の規定により、水島彰治常務理事及び木村康男正会員を指名して議事に入った。

### 議 事

(1)第1号議案 平成25年度事業報告(案)について

尾形専務理事から議案書に基づいて説明がなされ、承認が諮られた。

第1号議案は、異議なく提案通り承認された。

(2)第2号議案 平成25年度収支決算(案)について

第2号議案説明の前に内藤監事より、監査報告がなされ、監査の方法及びその内容、監査意見が述べられた。特に監査意見として平成25年度決算は、収支均衡予算であったにもかかわらず、赤字決算となった。赤字決算となった原因を分析し、平成26年度におい



「山の日」制定の報告をする衛藤征士郎顧問





# 平成25年度事業報告

(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

## 総括

平成25年4月1日より「公益社団法人」として新たに船出して1年が過ぎた。我が国の登山界を代表する団体としての使命と役割を果たすため、従前より広く、「安全登山の啓発」、「山岳の環境保全」、「山岳文化の発展」に寄与すべく取り組んできた。

とくに、平成25年度は、公益社団法人のスタート年として、安全登山及び山岳スポーツの指導・普及に努めながら、全国的な視野に立った各種登山・山岳スポーツの振興事業を実施した。

また、組織の充実強化においては、全国高体連登山専門部が、48番目の山岳団体として平成26年度から本会に加盟する事になった。

一方、これまで関係機関・団体と連携しながら取り組んできた「山の日」制定の8/11祝日化法案は、衆参両議院本会議で賛成多数で可決され、平成28年1月1日から施行されることになった。

## 1. 安全登山普及事業

### (1) 青少年育成事業

#### ア) 高体連登山専門部関連

##### ① 第57回全国高等学校登山大会の開催

8/2～6 大分県・久住山、大船山山域 91校、総勢863名参加

##### ② 第4回全国高等学校選抜クライミング選手権大会の開催

12/22～23 埼玉・加須市市民体育館 168名出場

##### ③ 高体連登山専門部の本会加盟と所属生徒の選手登録の体制整備

#### イ) ジュニア登山教室

##### ① 「少年少女登山教室」の開催(委託実施21件)

##### ② ジュニア普及情報交換会 2/15 東京

##### ③ 「みんな集まれ! ジュニア登山教室 in 立山」の開催

8/11～14 国立立山青少年自然の家ほか 参加者32名

##### ④ 「みんな集まれ! なすかし雪遊び隊」の開催

3/26～27 国立那須甲子青少年自然の家 参加者20名

#### ウ) JOC「オリンピック親子チャレンジ(登山)」の協力

9/22(日) 筑波山 茨城県山岳連盟

#### エ) 第4回日本山岳遺産サミット開催への協力

(10/23 東京)

### (2) 登山に関する文化・学術の振興事業

#### ア) 新聞・ラジオ・テレビ・雑誌等への情報提供

#### イ) 第4回日本山岳グランプリ顕彰の公募(平成25年度は該当者無し)

#### ウ) 平成25年度海外登山隊奨励金の公募と交付

・Giri Giri Boys K7 Exp.2014/Team WASABI 2014/  
Giri Giri Boys ウルタルⅡ峰登山隊の3隊に交付

エ) 第26回海外登山女性懇談会の開催(12/3 東京)

オ) 各種スポーツ賞及び叙勲・褒章等の候補者推薦

・第8回日本スポーツグランプリ:三浦雄一郎

・文部科学大臣スポーツ功労者顕彰:竹内洋岳

・第63回日本スポーツ賞:小田桃花

カ) 新春懇談会での功労表彰:赤塚徹、宇野仁章、堀

井啓介、山並久次、原秀樹、小山幹、蛭田伸一、開

澤浩義、安間佐千、小田桃花、野口啓代

キ) 各種登山及び山岳スポーツ大会等の後援(27件)

### (3) 安全登山の啓発事業

#### ア) 平成25年度中高年安全登山指導者講習会の開催

① 東部地区(愛知県・宇連山系) 9/27～29

② 西部地区(熊本県・南阿蘇山系) 10/11～12

#### イ) 山岳レスキュー講習会の開催

① 8/23～25 富山・国立登山研修所

② 1/24～26 群馬・土合山の家

#### ウ) 平成25年度全国山岳遭難対策協議会幹事会

6/14、11/5、2/7

エ) 平成25年度全国山岳遭難対策協議会の共催(文部科学省他) 7/3 東京

オ) ロープの強度試験の実施(9/7～8、登山研修所)

カ) ロープの強度・フォーラムの開催(2/22、東京)

キ) UIAA 登山標準調査

・UIAA 登山委員会に青山副委員長を派遣

(11/6～10 ベルギー)

ク) 雪崩アンケートの実施

(雪崩ネットワークとのタイアップ)

#### ケ) 研修及び研究会

① 遭難対策研修会兼委員総会(6/29～30 大阪)

② 遭難常任委員研修会(5/11～12 埼玉)

③ 国際委員総会兼第32回海外登山遭難対策研究会

(6/22～23 東京・八王子市)

コ) オーバーナイト・テントフォーラムの開催

(4/20～21 埼玉)

サ) 第52回全日本登山体育大会の開催

(11/8～10 茨城・筑波山、奥久慈男体山ほか)

### (4) 登山指導者育成事業

#### ア) 指導者研修会

① 指導委員研修・委員総会開催(6/8～9 東京)

② 指導常任委員研修会開催(4/6～7 神奈川)

③ 全国指導者講師研修会(SC-A級、B級主任検定員養成講習会)開催(8/31～9/1 神奈川)

④ 登攀技術研修会(A級主任検定員・上級指導員養成講習会)開催(10/12～13 岩手)

⑤ 氷雪技術研修会(AC-A級、B級主任検定員)開催

(4/28～29 富士山、2/15～16 大山)

#### イ) 指導者養成講習会

① スポーツクライミング指導員養成講習会(中央開催)開催(10/26～27、11/9～10日 埼玉・加須市)

② スポーツクライミング指導員養成講習会(地方開催)開催(宮城:8/17～18、8/24～25、北海道:9/28～29、11/2～3、神奈川:10/19～20、

11/23～24、福岡：11/2～3、11/16～17、沖縄：12/7～8、12/14～15、鳥取：1/18～19、1/25～26)

③スポーツライミング・コーチ養成講習会開催  
(6/22～24、7/13～15 東京)

ウ) 指導関係規程・規約集の整備

- ①公認山岳指導者関係規程・規約集の改訂
  - ②公認山岳上級指導員検定基準(AC)の改訂
  - ③公認山岳指導員検定基準(AC)の改訂
  - ④公認山岳指導員(SC)養成講習会テキストの改訂
- エ)「安全登山実践講座」の導入準備、テキスト作成  
オ) 国立登山研修所研修会の後援(通年)

## 2. 競技会運営及び競技力向上事業

(1) 競技会運営事業

ア) 競技会・研修会の開催

- ①第8回山岳スキー競技日本選手権大会  
(4/6～7 樺池高原)
- ②第27回リード・ジャパンカップ  
(東京国体リハーサル大会)(6/1～2 東京都)
- ③第16回JOCジュニアオリンピックカップ  
(8/10～11 富山・南砺市)
- ④ルートセッター全国研修会(8/13～15 富山)
- ⑤第4回全国高等学校選抜クライミング選手権大会開催(「青少年育成事業」の項参照)
- ⑥クライミング日本選手権2014「マムートカップ」  
(1/4～5 東京・東久留米市)
- ⑦第9回ボルダリング・ジャパンカップ「キョーリン」大会(2/22～23 静岡・静岡市)
- ⑧クライミング日本ユース選手権2014「ミレーカップ」  
(3/22～23 千葉・印西市)
- ⑨IFSCクライミングワールドカップ2014印西大会の開催準備
- ⑩競技部ブロック別研修会の開催(全国9ブロック)

イ) 国体山岳競技の主管

- ①東京国体第1回基準会議、東京都東久留米市(4/27)
- ②東京国体第2回基準会議、東京都東久留米市(5/31)
- ③組合せ抽選会 岸記念体育会館(9/9)
- ④ブロック大会の開催(委託実施)
- ⑤第68回東京国体山岳競技大会  
(10/4～6 東久留米市スポーツセンター)

ウ) 競技運営

- ①競技部委員総会の開催(4/7 東京)
- ②国体山岳競技規則集の改訂
- ③IFSC大会主催者ガイドブック2014年版の邦訳

(2) 競技力向上事業

ア) 日本代表選手の選考と派遣

- ①世界ユース選手権(8/15～19 カナダ)
- ②ボルダリングW-cup大会

(第2戦～8戦 4月～8月)

※野口啓代選手は、ボルダリングで女子世界ランキング2位

③リードW-cup大会(第1戦～8戦 7月～11月)

※安間佐千選手は、リードで2年連続(2012年、2013年)の年間チャンピオン

※小田桃花選手は、リードで女子世界ランキング3位  
※2013年IFSC国別ランキングで日本が1位

③アジア・ユース選手権(12/11～14 インドネシア)

④海外強化合宿の派遣(1/3～12 ドイツ)

⑤2014ソチ冬季五輪への選手派遣(アイスクライミングのデモンストラレーションに男女各1名を派遣)

ウ) スポーツ障害予防の啓発

エ) ドーピング防止の指導啓発

①ドーピング検査実施(4大会で委託実施)

②ドーピング防止思想の啓発・教育

## 3. 登山研究調査事業

(1) 国際交流事業

ア) 派遣

- ①日中韓技術交流研修会への派遣(9/13～20 中国)
- ②エベレスト初登頂60周年記念式典(5/29 ネパール)
- ③スイス山岳会創立150周年記念祝賀会(10/4 スイス)
- ④BMC国際ウインタークライマーズミートへの派遣  
(1/26～2/2 英国)

イ) 国際交流

- ①大ネパール展(6/1～2 東京)
- ②カンボジア・クライマー来日歓迎会(7/27 東京)
- ③第7回日中韓三国合同学生登山歓迎レセプション  
(8/16 横浜)
- ④ジャムリン・テンジン・シェルパ氏来日歓迎会  
(10/7 東京)
- ⑤駐ネパール新旧大使館送迎会(10/29 東京)
- ⑥スロベニア・クライマー来日歓迎会(3/2 東京)
- ⑦フランスのスポーツ・青少年大臣、ヴァレリー・フルネロン氏来日歓迎レセプション(3/20 東京)
- ⑧パキスタン・ナショナルデー・レセプション  
(3/24 東京)

(2) 医・科学支援事業

ア) 日体協公認スポーツドクター養成支援  
(代表者協議会への出席)

イ) UIAA MedComのテーマ「非コーカサス人種と高所」の調査・研究の発表(継続)

ウ) 日山協が支援している医科学的諸事業

- ①国際認定山岳医研修会
  - ②日本登山医学会認定山岳医研修会
  - ③NPO富士山測候所を活用する会
  - ④J SMM登山者検診ネットワーク
  - ⑤日本登山医学会ファーストエイド講習会
- (3) 山岳環境保全事業
- ア) 研修及び研究会
- ①「山岳自然の集い中央大会」(第37回自然保護委員総会)の開催(9/14～16 埼玉)
  - ②常任委員現地研修会(5/18～19 埼玉)

- イ) 自然保護の啓発
  - ① 自然保護指導員制度の推進
  - ② 環境省・全国環境月間(6月)の協力
  - ③ 環境庁・自然公園指導員制度への協力
    - ・ 自然公園指導員表彰候補者：小川秀樹を推薦
    - ・ 自然公園指導員の委嘱  
(千葉2名、群馬2名、北海道1名)
  - ④ 自然公園ふれあい全国大会(8/30～31、尾瀬)
  - ⑤ JMA自然保護ブログページ開設の検討
  - ⑥ 山の野生鳥獣目撃レポート・プロジェクトの推進・試行
- ウ) その他
  - ① トレイルランの実態調査
  - ② 「山はみんなの宝」憲章及び登山ルールづくりの支援
  - ③ 総合的山岳環境保全対策推進(自然公園財団)に係る検討会への協力

#### 4. 共益事業

- (1) 広報等
  - ア) 『登山月報』毎月15日定期発行 第529号(4月号)～第540号(3月号)
  - イ) HPの更新(随時)
    - ・ HPのアクセス件数(2013年2月1日～2014年3月5日):195,233(訪問数)、102,539(ユーザー数)、786,234(頁閲覧数)、39.54%(直帰率)
  - ウ) 日山協広報リーフレットの作成(1万部)・配布
- (2) 会議等
  - ア) 会計監査 4/15～16、中間監査 10/22
  - イ) 総会 5/26
  - ウ) 参与会(11/8 茨城 第52回全日大会)
  - エ) 顧問・参与会(1/18、新春懇談会)の開催
  - オ) 理事会 第1回(5/11)、第2回(5/26)、第3回(11/17)、第4回(3/9)
  - カ) 常務理事会 毎月定例(木)開催
  - キ) 運営部会(常務理事・委員長合同会議)(6/13、9/12、12/12、2/27)
  - ク) 代表者会議(旧評議員会に代わる全国会議)開催(2/16)
  - ケ) 三役会 毎月常務理事会の前に開催
  - コ) 常任委員会 毎月1回以上開催
  - サ) 山岳4団体懇談会の開催(7/17 東京)
  - シ) 平成26年新春懇談会(1/18 東京)
  - ス) 「山の日」制定プロジェクトの推進  
(※4/25衆議院本会議で可決、5/23参議院本会議で可決。)
  - ソ) 国際会議への派遣
    - ① 国際山岳連盟(UIAA)理事会(5/3～4 イタリア)
    - ② アジア山岳連盟(UAAA)理事会(6/1～5 台湾)
    - ③ 国際山岳連盟(UIAA)総会(10/3～8 スイス)
    - ④ アジア山岳連盟(UAAA)総会(9/28～10/2 パキスタン)

- ⑤ 国際スポーツクライミング連盟(IFSC)イベント・オーガナイザー会議(11/16～17 スロベニア)
- ⑥ 国際スポーツクライミング連盟(IFSC)総会(3/1 フランス)
- タ) その他
  - ① 2020夏季五輪実施候補競技合同取材会(5/16)
  - ② スポーツ界における暴力行為根絶に向けた集会(4/25)
  - ③ 富士山利用者負担専門委員会への派遣
  - ④ 国立登山研修所専門調査委員会への派遣

#### 【お詫びと訂正】

『登山月報』5月号12頁の「競技部ブロック別研修会日程」の関東ブロック(埼玉)の日程は、1月24(土)～25(日)でした。お詫びして訂正します。

### 平成25年度収支決算 (平成25年4月1日～平成26年3月31日)

#### 貸借対照表

(単位：円)

科 目	当年度 (H26/3/31)	前年度 (H25/3/31)	差 異
<b>I 資産の部</b>			
1 流動資産			
現金・預貯金・郵便振替	33,840,848	15,280,385	18,560,463
未収金	5,920,805	3,785,408	2,135,397
前払費用	578,930	206,810	372,120
流動資産合計	40,340,583	19,272,603	21,067,980
2 固定資産			
(1) 基本財産			
基本財産定期預金	30,000,000	50,000,000	△ 20,000,000
基本財産合計	30,000,000	50,000,000	△ 20,000,000
(2) 特定資産			
国民スポーツ登山振興基金	15,495,367	15,495,367	0
退職給付引当資産	1,836,240	1,836,129	111
特定資産合計	17,331,607	17,331,496	111
基本財産・特定資産合計	47,331,607	67,331,496	△ 19,999,889
(3) その他固定資産			
機械器具	32,150	32,150	0
什器備品	237,825	396,375	△ 158,550
ソフトウェア(選手登録用)	1,065,750	0	1,065,750
電話加入権	43,989	43,989	0
その他固定資産合計	1,379,714	472,514	907,200
固定資産合計	48,711,321	67,804,010	△ 19,092,689
資産合計	89,051,904	87,076,613	1,975,291
<b>II 負債の部</b>			
1 流動負債			
未払金	1,203,300	2,287,885	△ 1,084,585
未払費用	3,059,683	750,000	2,309,683
前受金	2,410,900	200,100	2,210,800
預り金	367,962	234,641	133,321
流動負債合計	7,041,845	3,472,626	3,569,219
2 固定負債			
退職給付引当金	3,892,000	1,835,500	2,056,500
固定負債合計	3,892,000	1,835,500	2,056,500
負債合計	10,933,845	5,308,126	5,625,719
<b>III 正味財産の部</b>			
1 指定正味財産			
指定正味財産合計	30,000,000	50,000,000	△ 20,000,000
(うち基本財産への充当額)	(30,000,000)	(50,000,000)	(△ 20,000,000)
2 一般正味財産			
一般正味財産合計	48,118,059	31,768,487	16,349,572
(うち特定資産への充当額)	(17,331,607)	(17,331,496)	(111)
正味財産合計	78,118,059	81,768,487	△ 3,650,428
負債及び正味財産合計	89,051,904	87,076,613	1,975,291



# 正味財産増減計算書

科目	当年度 (H26/3/31)	前年度 (H25/3/31)	差異
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	7,848	4,010	3,838
基本財産受取利息	7,848	4,010	3,838
特定資産運用益	3,982	0	3,982
特定資産受取利息	3,982	0	3,982
受取会費	14,415,000	14,502,000	△ 87,000
正会員受取会費	2,470,000	11,450,000	△ 8,980,000
加盟分担金受取会費	9,203,000	0	9,203,000
賛助会員受取会費(個人・団体)	2,742,000	3,052,000	△ 310,000
事業収益	78,188,840	89,374,132	△ 11,185,292
共済会委託事業収入	40,000,000	40,000,000	0
登録料	4,127,000	4,300,000	△ 173,000
参加者負担金	23,204,950	22,288,000	916,950
協賛金	6,065,805	15,490,000	△ 9,424,195
広告料	2,915,500	2,560,000	355,500
その他事業収益	1,875,585	4,736,132	△ 2,860,547
受取補助金等	20,529,340	21,077,917	△ 548,577
日本スポーツ振興センター委託金	2,900,000	2,900,000	0
日本オリンピック委員会助成金	3,416,000	3,452,000	△ 36,000
国民体育大会補助金	4,791,440	5,018,020	△ 226,580
日本体育協会助成金	2,750,900	1,390,897	1,360,003
スポーツ振興くじ助成金	3,671,000	3,562,000	109,000
スポーツ振興基金助成金	3,000,000	4,755,000	△ 1,755,000
雑収益	4,382	268,352	△ 263,970
受取利息	2,432	20,914	△ 18,482
雑収入	1,950	247,438	△ 245,488
経常収益計	113,149,392	125,226,411	△ 12,077,019
(2) 経常費用			
事業費	94,762,107	98,878,988	△ 4,116,881
給料手当	10,500,000	11,002,647	△ 502,647
通勤費	913,729	0	913,729
退職給付費用	1,475,145	0	1,475,145
福利厚生費	179,963	0	179,963
会議費	1,812,617	1,411,706	400,911
旅費交通費	30,561,566	23,738,943	6,822,623
通信運搬費	2,097,758	1,578,892	518,866
減価償却費	150,272	0	150,272
消耗品費	1,536,979	1,383,682	153,297
印刷製本費	7,740,784	9,272,345	△ 1,531,561
光熱水料費	70,453	0	70,453
賃借・リース料	3,899,863	6,861,113	△ 2,961,250
保険料	1,152,057	859,640	292,417
諸謝金	13,266,063	12,386,650	879,413
租税公課	56,364	0	56,364
支払負担金	844,888	5,578,791	△ 4,733,903
支払助成金	5,930,000	9,441,186	△ 3,511,186
委託費	10,207,492	6,317,799	3,889,693
大会施設修繕費	0	3,200,420	△ 3,200,420
派遣費	0	2,397,500	△ 2,397,500
大会記念品費	907,892	347,221	560,671
大会賞金	1,180,000	2,621,925	△ 1,441,925
交際費	0	420,000	△ 420,000
雑費	278,222	58,528	219,694
管理費	22,037,713	24,166,154	△ 2,128,441
役員報酬	60,000	0	60,000
給料手当	4,138,052	4,390,087	△ 252,035
通勤費	360,101	950,140	△ 590,039
退職給付費用	581,355	500,000	81,355
福利厚生費	70,923	247,060	△ 176,137
会議費	1,478,002	553,435	924,567
旅費交通費	7,644,253	5,887,947	1,756,306
通信運搬費	182,418	899,016	△ 716,598
減価償却費	45,028	158,550	△ 113,522
消耗品費	129,631	538,271	△ 408,640
印刷製本費	1,482,067	1,025,149	456,918
光熱水料費	10,689	37,705	△ 27,016
賃借・リース料	708,786	2,543,334	△ 1,834,548
支払会費	2,316,359	2,209,240	107,119
保険料	58,734	294,460	△ 235,726
租税公課	22,356	91,350	△ 68,994
支払負担金	1,253,300	1,154,700	98,600
交際費	407,766	383,357	24,409
支払報酬	334,112	0	334,112
手数料	415,015	1,289,265	△ 874,250
IT関連	260,141	959,428	△ 699,287
雑費	78,625	53,660	24,965
経常費用計	116,799,820	123,045,142	△ 6,245,322
評価損益等調整前当期経常増減額	0	0	0
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	△ 3,650,428	2,181,269	△ 5,831,697
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	75,915	△ 75,915
当期経常外増減額	0	△ 75,915	75,915
指定正味財産から振替額	20,000,000	0	20,000,000
当期一般正味財産増減額	16,349,572	2,105,354	14,244,218
一般正味財産期首残高	31,768,487	29,663,133	2,105,354
一般正味財産期末残高	48,118,059	31,768,487	16,349,572
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	△ 20,000,000	0	△ 20,000,000
指定正味財産期首残高	50,000,000	50,000,000	0
指定正味財産期末残高	30,000,000	50,000,000	△ 20,000,000
III 正味財産期末残高	78,118,059	81,768,487	△ 3,650,428

# 財産目録

平成26年3月31日現在 (単位:円)

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金額
現金・貯預金・郵便振替			33,840,848
現金	手元保管	日常の小口資金として	189,481
預貯金	当座預金	日常の入出金口座	2,916,905
	みずほ銀行渋谷支店		
	普通預金		7,164,237
	みずほ銀行渋谷支店	日本スポーツ振興センター助成金入金口座	653,189
	3382463		
	みずほ銀行渋谷支店	免税口	11
	3382501		
	みずほ銀行渋谷支店	日本オリンピック委員会補助金入金口座	258,920
	3382563		
	みずほ銀行渋谷支店	日本体育協会補助金入金口座	5,136,593
3382447			
三菱東京UFJ渋谷明	日本スポーツ振興くじ補助金入金口座	334,619	
治通支店3788361			
三菱東京UFJ渋谷明	定期預金利息入金	712,955	
治通支店3780203			
みずほ銀行渋谷支店	国民スポーツ登山振興基金利息	67,950	
8017119			
ゆうちょ銀行郵便振替		3,570,225	
0110-5-546693	一般会計入出金用	2,603,780	
0110-8-407261	指導関係入出金用	966,445	
定期預金			
みずほ銀行渋谷支店	当法人の事業資金	20,000,000	
6078990			
未収金			5,920,805
流動資産合計	日本スポーツ振興センター	スポーツ振興くじ助成金	1,671,000
	日本スポーツ振興センター	スポーツ振興基金助成金	1,500,000
	日本オリンピック委員会	選手強化助成金	880,000
	日本体育協会	日本体育協会助成金	12,000
	日本用品	賛助会員会費	50,000
	博報堂	BJC協賛金	193,305
	ラフマミレー	ユース選手権協賛金	940,000
	アルバイツアーサービス	月報広告料	126,000
	北丹沢山岳センター	月報広告料	135,600
	ブロック研修会	参加料	281,000
国際大会参加登録	ライセンスフィー	131,900	
前払費用			578,930
固定資産	風の旅行社	UIA登山委員会役員旅費	172,120
	千葉和弘	ワールドカップ現地サポート費用	200,000
	瀬田工業	賠償責任保険料	206,810
流動資産合計			40,340,583
(固定資産)			30,000,000
基本財産			30,000,000
基本財産定期預金	みずほ銀行渋谷支店	当法人の基本財産	30,000,000
1714787			
特定資産			17,331,607
国民スポーツ登山振興基金	三菱東京UFJ渋谷明	国民スポーツ登山振興基金特別会計	15,495,367
治通支店3780203			
退職給付引当資産	みずほ銀行渋谷支店	職員の退職金支払に備えたもの	1,836,240
8141855			
その他固定資産			1,379,714
機械器具	パソコン	事務局用	32,150
什器備品	書庫	事務局用	237,825
ソフトウェア	選手登録データベース構築費用(選手登録用)		1,065,750
電話加入権	03-3481-2396	事務局用	43,989
固定資産合計			48,711,321
資産合計			89,051,904
(流動負債)			1,203,300
未払金			488,800
選手登録還付金			152,000
自然保護還付金			250,500
審判員登録料還付金			312,000
参与通信費			3,059,683
未払費用			1,102,500
アドバンテストメディアサービス	選手登録データベース構築費用		743,679
明宏印刷	登山月報印刷費		680,357
日本アンチドーピング機構	日本ユース選手権ドーピング検査		110,250
ジョイフル観光	那須甲子雪遊び隊送迎バス		150,000
ポルダリングジャパンカップスタッフ謝金			272,897
日本ユース選手権中継制作費ほか			2,410,900
前受金			900
月報購読料			312,000
大会参加費			1,600,000
選手登録料			134,000
競技運営員登録料			364,000
自然保護指導員登録料			367,962
預り金			60,730
給与源泉税			232,747
謝金源泉税			64,485
雇用保険料			10,000
前受正会員会費			7,041,845
流動負債合計			7,041,845
(固定負債)			3,892,000
退職給付引当金	職員の退職金支払に備えたもの		3,892,000
固定負債合計			10,933,845
負債合計			18,975,690
正味財産			78,118,059

## 第67回 Mountain World

### ネパール／チベット、今春の8000m峰

池田常道

前号に報じたように、エヴェレスト(8848m)のクーンブ・アイスフォールで4月18日に起きた雪崩遭難は、政治的思惑もからめた若手シェルパの扇動によりボイコットに発展した。不穏な情勢に見切りをつけた有力公募隊が撤退、他の登山隊もあいついでBCを去った。ネパール政府が公式に登山中止を決めたわけではないが、ボイコット派はアイスフォールドクターたちを恫喝して、ルート工作に戻らないようにさせた。

登山中止を受け入れなかったのが中国女性ワン・ジン(40)で、HIMEXのラッセル・ブライスに断られたあと独自に5人のシェルパと2人のキッチンスタッフをスカウト、ヘリでウェスタン・クウムに飛んだ。シェルパはこれまでエヴェレストに登ったこともないメンバーだったが、なんとかルート工作を済ませ、5月23日にワンを頂上まで送り届けて今季初登頂に成功した。アウトドア用品メーカーTOREADのオーナーであるワンは、あり余る資金にモノを言わせて「7大陸最高峰+南北両極」計画を遂行中、それも従来の記録6ヶ月11日を破る新記録を目指していただけに、いまさら中止するわけにはいかなかったのである。アイスフォールをスキップしたこの登山を登頂と認めるかどうかは、おおいに疑問のあるところだ。なおワンは、アイスフォールを歩いて通過したと主張したまま、次の目標デナリ(6194m)に向けてアラスカへ旅立った。

今季のエヴェレストは天候不順でチベット側もルート工作が遅れ、最初の登頂が5月24日までずれ込んだ結果、登頂成功は100人前後まで落ち込んだ。ローツェ(8516m)はボイコットのあおりを受けて、アンナプルナ(8091m)とマナスル(8163m)は深い雪に行き悩んで、いずれも登頂者なしに終わった。わずかに10人がダウラギリ(8167m)の頂上に立つに留まった。一方、カンチェンジュンガ(8586m)では25人以上、マカルー(8463m)では約50人が登頂に成功した。チベット側ではシシャパンマ(8027m)に8人が登頂。そのうち4人は、南西壁1982年英国ルートを実験スタイルで登ったフランス陸軍高山会チームだった。チョー・オユー(8188m)には30人内外が登頂した。

カンチェンジュンガの登頂者は、その大半が無酸素

だった。5月17日にイタリアのロマーノ・ベネト、ニヴェス・メロワ夫妻が南西面通常ルートから頂上に立ち、夫妻で12座目の8000m峰登頂を成し遂げた。1998年のナンガ・パルバット(8126m)を皮切りに8000m峰オデッセイを開始した夫妻は、2008年までに11座を、すべて無酸素で一緒に登っていた。ところが2009年、カンチェンジュンガの頂上攻撃の際にベネトの体調が悪化、メロワは登頂を諦めて、夫を最終キャンプまで無事エスコートした。当時、女性初の14座完登レースでトップを並走していた彼女は、自らの成功より夫の身を案じたのだった。それから5年、スペインのエドウルネ・パサバンやオーストリアのゲアリンデ・カルテンブルーナー、疑問視された呉銀善(オ・ウンソン、韓国)らがメディアを賑わせる間、夫妻はひそかに機をうかがい、今回カンチェンジュンガに帰ってきたのだった。残された頂はマカルーとアンナプルナ、以前苦杯を喫したこの山へ、手に手をたずさえ、自分たちのやりかたで再挑戦することだろう。

数年越しの夢を实らせた点ではスペインの75歳、カルロス・ソリアも同様だ。1973年に初めてヒマラヤに見参して以来4座に登った彼は、仕事を辞めてからK2(8611m)を初め次々に8000m峰を手にしてきた。数年来挑んだカンチェンジュンガは、彼にとって11座目の巨峰登頂であり、もちろんこの山の最高齢登頂記録に当たる。彼は65歳でK2、68歳でブロード・ピーク(8051m)、69歳でマカルー、70歳でガッシャブルムI峰(8068m)、71歳でマナスル、72歳でローツェと、今回を含めて7座の最高齢登頂記録をモノにしている。

カザフからロシアに戻った14座登頂者デニス・ウルブコは、ロシア、スペイン、ポーランドのクライマーを糾合して北西壁新ルートを目指した。ヤルン・カン(8505m)寄りのラインから主峰へ抜けるつもりだったが、セラック崩壊の危険が高いため、順応に使った1979年英国ルートをそのまま踏襲。南西面への横断を企てたアダム・ビエレッキ(ポーランド、ブロード・ピーク冬季初登頂者)ら3人が8350mで断念した翌5月19日、単身頂上を陥れた。

インド女性チャンドラ・ガイエンは5月18日にシェルパ2人と共に登頂。返す刀でヤルン・カンを狙ったが、4日後に消息を絶ってしまった。彼女は昨年エヴェレストとローツェに連続登頂しており、今回もそれを狙ったようだが、シェルパのダワ・ウォンチュ(28)、ミンマ・テンバ(24)もろとも雪崩に埋められたと推測されている。



北から南からブロック便り  
四国ブロック

「君は風 いしづちを駆け 瀬戸に舞え」

表記スローガンのもと、「愛顔つなぐえひめ国体」が3年後の2017年(平成29年)に愛媛県で開催されます。

これを受けて、山岳連盟では国体山岳競技の開催準備に向けて全員・全力で取り組んでいるところです。準備を進めていくと、本当に色々な問題が立ちはだかり、元々綿密な事務処理が苦手な山男にとってその壁は高く、悪戦苦闘しているところです。今後は、東京都山岳連盟を始めとする国体開催都道府県及び日本山岳協会の指導を受けながら推進したいと思っていますので、ご支援をお願いします。

現在の準備状況についてお知らせします。山岳競技会場は、ボードから石鎚山がはっきり見える西条市西部公園内に設置されます。競技施設については、特にこだわりを持って取り組んだ結果、国体終了後も常設施設として残して頂くことが承認されました。山岳競技の普及発展のためにも本当に安心しました。平成26年2月にはリード、ボルダリング両ボードとも同時完成予定ですので、中四国山岳連盟の皆様、是非ご利用して下さい。

つぎに、愛媛県での天皇杯獲得に少しでも貢献でき



るよう、選手の発掘と強化育成に関してですが、この1年が勝負であると焦っています。まだまだ県民に浸透してなくて、競技内容を理解して頂くことから始めています。現在、山岳連盟役員が小学校、中学校、高校の校長先生に説明に行ったり、山岳競技体験教室を開催したり、クライミング・クラブを設立したりと、試行錯誤しながら推進しています。

最後に、連盟として愛媛県に要望していた「環境配慮型トイレ」が石鎚山付近(二の鎖下)に10月頃完成することになりました。これを機に「日本一美しい山のトイレ」を目指して、連盟として自然保護の強化に積極的に取り組んで行きたいと思っています。

西日本最高峰「石鎚山(1,982 m)」を中心に、美しい自然が色濃く残る山が多く残っている愛媛県に是非お出掛け下さい。(愛媛県山岳連盟会長 峯本典寛)

日本の山岳シリーズ切手・第4集が発売

日本山岳協会顧問 田中文男

田中文男顧問の助言・監修による特殊切手「日本の山岳シリーズ第4集」が5月1日に発売となった。この山岳シリーズ切手は、第3集まで売行きが好調で、既に第1集、第2集は、完売となっている。

今回の切手は、“夏の山”を題材にしたもので、各県山岳連盟に原画となる写真提供を依頼した結果、次の5県の写真が採用となった。秋田県・秋田駒ヶ岳(撮影・安部準英)、長野県・奥穂高岳(撮影・水野忠男)、広島県・三倉岳(みくらだけ)(撮影・京才昭)、徳島県・剣山(撮影・前田裕史)、長崎県・雲仙岳(撮影・山本宣征)、宮崎県・大崩(おおくえ)山(撮影・森本辰雄)

残りの千葉県・伊予ヶ岳、静岡県・富士山、兵庫県・六甲山、沖縄県・玉辻山は、郵便事業会社が独自のルートで探し出してきた写真が採用された。

あと1シリーズで47都道府県の山が全部揃う。ご自身が撮られた写真が切手化できるのは、名誉な事、今後とも写真提供のご協力をお願いしたい。





## 氷雪技術研修会、主任検定養成講習会、上級指導員養成講習会

平成26年4月26日、27日で、昨年からゴールデンウィーク前半に日程変更をした、恒例の富士山での「氷雪技術研修会」が開催された。参加者の内訳は、A級主任検定員5名、B級主任検定員1名、上級指導員2名、研修会9名の参加。加えて、日山協及び山梨県山岳連盟のスタッフ10名での開催となった。今回より山梨県岳連に正式に主管をお願いして開催の運びとなり山梨県岳連の皆様には大変お世話になりました。また、今回は山梨の学生4人も参加して、若い人の覚えようとする意欲が感じられ、全員の意欲もアップして、やりがいのある研修会になった。

参加者代表の感想文と写真、また常任委員の堤さんよりスタンディング・アックス・ビレー（SAB）の改良版の研修が今回も実施されましたので、報告いたします。（記 指導常任委員 野村善弥）

### A級主任検定員養成講習会感想

北海道山岳連盟・RSI山の会 川島教実

初日の10時に富士急行富士山駅集合ということで、時間になるとそれと分かる方々が受付に現れる。受付を済ませると今回使用する資料が手渡され目を通す。養成講習会とはいえ検定会であるため徐々に緊張してくる。富士スバルラインは前日から開通。空もすっきりと晴れ渡り、丁度5合目より冠雪している富士山が眩しい。各自装備を整え、まずは机上講習・宿泊地となる佐藤小屋に移動する。佐藤小屋は屋根と出入口以外は雪に埋まっており、皆で明り取りの窓を確保（除雪）後、机上講習のスタート。天候も良いことから早々に屋外でのSABのデモンストレーションと指導法の練習に入る。SABの手技がこれまでより安全・確実



にできるように工夫されており、この新しい手法を覚えるのに手間取るが、指導法のポイントを忘れないよう、まずは頭に入れる。今回はTV局のクルーが同行しており、我々の講習会の模様をカメラに収めていた。講習会後は鍋を囲みながら夕食、そして懇親会へと続いた。今回は北海道、山形、茨城、東京、山梨、長野、石川、岐阜からの参加者で、翌日の検定の話しや地元の方々の紹介などで交流を深めた。懇親会後は就寝時間まで、自分の弱点の克服のための復習、イメージトレーニングを繰り返した。

2日目は規程・規約・検定基準の机上講習からスタートし、その後は屋外で検定会。各個人毎に異なったテーマでの指導法質疑から始まり、滑落停止とSABについてはデモンストレーションを含めた指導法の検定と進む。上級指導員なのだからできて当たり前部分もあるが、検定という面で緊張はピークに達する。それでも、自分が指導した（伝えた）技術が一個人に伝授され、更にそこから伝播していくことを考えると、自分自身にこそ正確な技術・指導が必要であるという思いで真剣、かつ真摯に検定に臨むことができた。装備・道具・時代・環境が変われば、それに対応した技術・考え方も変わるのも当然。万人に無理なく、間違いなく使うことができる技術が、本当の「使える」技術と考えると、指導法もまた、時代との関連で生まれ、発展していくものなのかと考える。この意味でこのような講習会には各岳連で定期的に参加し、その時代にマッチした技術・指導法を広く展開していくべきと考える。最後に今回の研修・養成講習を運営してくださった日山協・山梨県山岳連盟の方々に感謝致します。



## 平成26年度理事会(第1回)報告

去る、5月10日(土)に岸記念体育会館で平成26年度理事会(第1回)が開催された。

理事会に先立ち神崎会長から「今年のGWも遭難事故が多発した。18名の死亡事故の内、山岳共済会加入者は3名。山岳保険の加入率が低い。公益社団法人となって1年が経過した。役員・委員長の意識改革からはじまって、理念・目的を明確にし、それに向かって活動を展開する中で、組織づくりのためにプロジェクト・チームを立ち上げ、喫緊の課題についてはワーキング・グループで対処してきたが、監事からの指摘の通り遅延していて成果が上がっていない。今後は、登山人口の99%を占める未組織登山者とどう向き合っていくのか、を含めて本協会はこれまで以上に関係山岳団体と連携しながら登山界のリーダーシップを取って行かなければならない。本協会の役員として自信と誇りを持って取り組んでもらいたい。」と挨拶。

次いで、定款第32条第1項の規定により神崎会長を議長に選出して議事に入った。

議事の前に議事録署名人として定款第34条第2項の規定により神崎忠男会長、内藤順造・岡本忠良・中畠正喜各監事を選出。

### 議 事

#### (1)第1号議案 平成25年度事業報告(案)について

尾形専務理事より議案書に基づき平成25年度の事業報告が説明され、承認が諮られた。

公益社団法人になって業務執行理事は、4箇月を超える間隔で2回以上、自己の職務の執行状況を理事会に報告しなければならなくなったが、どのように報告されたか。の質疑の後、第1号議案は、提案通り承認された。

#### (2)第2号議案 平成25年度収支決算(案)について

第2号議案説明の前に内藤監事より、監査報告がなされ、監査の方法及びその内容、監査意見が述べられた。次いで相良理事より議案書に基づき、貸借対照表、正味財産増減計算書、正味財産増減計算書内訳表、財産目録、財務諸表に対する注記について説明された。

平成25年度は収支均衡予算であったにもかかわらず赤字決算となった。諸事業が多過ぎ、役員派遣旅費、諸謝金なども嵩むのだろうが、赤字決算は今期限りにしてもらいたい。予算執行にあたっては、予算統制をするなどして予算を厳守して貰いたい。

公益社団法人では、特定資産の確保が大事である。指定正味財産が減額になったが、今一度説明願いたい。

公益法人になって益々事務繁忙になったと思われるにも関わらず人件費が前年対比で減額になったのは何故か。退職給付引当金を予算以上に上積みしたのは何故か。などの質疑の後、第2号議案は、提案通り承認された。

#### (3)第3号議案 平成26年度収支予算に係る付帯決議について

尾形専務理事より議案書に基づき、平成26年度収支予算について平成26年度上期の予算執行をみて変更が生じた場合、補正予算を組んで対処することと同予算案については常務理事会に一任するとの承認が諮られ、第3号議案は、提案通り承認された。

#### (4)第4号議案 正会員の入会承認について

尾形専務理事から議案書に基づき、以下の正会員の入会承認が1名ずつ諮られた。

齋藤喜代志(秋田県山岳連盟)、蛭田伸一(千葉県山岳連盟)、唐木真澄(長野県山岳協会)、小比賀利雄(和歌山県山岳連盟)、前田善彦(全国高等学校体育連盟登山専門部)

第4号議案は、提案通り承認された。

#### (5)第5号議案 賛助会員(個人)の入会承認について

尾形専務理事より議案書に基づき、以下の賛助会員(個人)の入会承認が1名ずつ諮られた。

松元邦夫(東京都山岳連盟)、藤井謙昌(東京都山岳連盟) 第5号議案は、提案通り承認された。

#### (6)第6号議案 登録選手規程の一部改訂について

森下常務理事より議案書に基づき、高体連登山専門部の登録に関わる登録選手規程の一部改訂について説明がなされ、承認が諮られた。

規程として相応しくない条・項・号や又は・及び・並びなど接続詞の不統一などが指摘されたが、これは現行規程がこのようになっているため、競技部としては、26年度中に全面改定を予定している。今回は、電子(Web)登録絡みで、取り敢えず現状にそぐわない箇所だけの改訂を提案した。との事。

その他、登録事務手数料の還付について、高体連登山専門部の本部だけが潤うのではなく、各都道府県の高体連登山専門部にも還付して貰いたい、との要望が出された。

第6号議案は、文言の一部訂正で承認された。

#### (7)第7号議案 国体山岳競技規程の一部改訂について

#### (8)第8号議案 国体山岳競技競技運営員規程の一部改訂について

第7号議案と第8号議案は、関連議案として森下常務理事より議案書に基づき、一括説明を行い、承認が



諮られた。

国体山岳競技規程の改訂は、山岳競技開催基準要項細則、山岳競技全種目についての共通規則、リード競技規則、ボルダリング競技規則、山岳競技施設認定規則、クライミング競技審判員規程、山岳競技審判員及びルートセッター選考規則、ルートセッター派遣規程など8つの規程・規則にわたり、そのうち、施設認定規則と審判員及びルートセッター選考規則の改訂について議論百出した。

施設認定規則では、第10条第1項6号の「ウォールの設置場所を原則として室内とする。」について質疑が交わされた。

審判員及びルートセッター選考規則では、第3条第2項3号の「ルートセッターは、競技会会場に設置したクライミング・ウォールの製作者又はその施行関係者は除外しなければならない。」について、チーフ・ルートセッターのみとする改訂案に対して従来通りルートセッターとすべき、との質疑が飛び交った。

結局、第7号議案は、継続審議とすることで、差し戻された。

第8号議案の山岳競技競技運営規程の改訂については、内規第3条の「受講証交付名簿を必要に応じて送付する。」を「送付する。」にして貰いたい、との意見の他は、概ね了承されたように思われたが、第7号、第8号議案は、一括説明だったため、第8号議案も継続審議として差し戻され、次回理事会に再上程されることになった。

(9)第9号議案 自然保護指導員規程及び自然保護指導員規取扱細則の一部改訂について

尾形専務理事より議案書に基づいて説明され、承認が諮られた。第9号議案は、一部加筆訂正で承認された。

(10)第10号議案 平成26年度定時総会議案について

尾形専務理事により議案書に基づいて説明され、承認が諮られた。第10号議案は、一部訂正で承認された。

## 報 告

(1)平成25年度日本山岳協会山岳共済会事業報告及び収支決算について

尾形専務理事より資料に基づき、平成25年度の事業及び収支決算の報告がなされた。

(2)WGの経過報告について

國松副会長より資料に基づき、WGの経過報告がなされた。

(出席者)理事：神崎忠男、八木原罔明、國松嘉伸、佐藤旺、尾形好雄、小野寺齊、西内博、仙石富英、森下健七郎、京才昭、水島彰治、瀧本健、青木秀則、相

良忠麿、増山茂、北村憲彦、小野倫夫、高橋時夫、永山義春、亀井正明、伊藤克己、小林弘之、宮崎良平、多田修、各理事24名、監事：内藤順造、岡本忠良、中島正喜、以上3名(欠席者)小宮山稔理事

## 平成26年度理事会(第2回)報告

5月25日(日)の定時総会終了後に岸記念体育会館で平成26年度理事会(第2回)が開催された。

総会に引き続いての理事会のため会長挨拶は割愛して、早速、定款第32条第1項の規定により神崎会長を議長に選出して議事に入った。

議事の前に議事録署名人として定款第34条第2項の規定により、神崎会長と内藤順造、岡本忠良、中島正喜各監事を選出。

## 議 事

(1)第1号議案 平成26年度理事会(第1回)議事録承認について

尾形専務理事より議案書に基づき平成26年度第1回理事会(5月10日開催)の議事録の承認が諮られた。

第1号議案は、異議なく提案通り承認された。

(2)第2号議案 正会員の入会承認について

尾形専務理事より議案書に基づき、中村久住氏(大阪府山岳連盟)の正会員の入会承認が諮られた。

第2号議案は、異議なく提案通り承認された。

(3)第3号議案 組織・管理運営規程の一部改正(案)について

尾形専務理事より議案書に基づき、主にドーピング防止委員会の現状に則した規程の一部改訂(案)について説明がなされ、承認が諮られた。

第3号議案は、第12条の一部文言訂正で承認された。

(4)第4号議案 国民体育大会山岳競技規則の一部改訂(案)について

尾形専務理事から、議案書に基づき、以下の規程・規則の一部改訂(案)は、既に平成26年度第1回理事会(5月10日開催)で説明しているので、再度の逐条説明は省き、補足説明の後、これらの一部改訂(案)について承認が諮られた。

①国民体育大会山岳競技開催基準要項細則の一部改訂(案)

②国民体育大会山岳競技全種目についての共通規則の一部改訂(案)

③リード競技規則の一部改訂(案)

④ボルダリング競技規則の一部改訂(案)

⑥クライミング競技審判員規程の一部改訂(案)

⑧国民体育大会ルートセッター派遣規程の一部改訂(案)

第4号議案の①、②、③、④、⑧の規程・規則の一部改訂（案）は、提案通り承認された。⑥は、一部訂正で承認された。

次いで森下常務理事より議案書に基づいて⑤山岳競技施設規則の一部改訂（案）について説明があり、承認が諮られた。

第4号議案の⑤山岳競技施設認定規則の一部改訂（案）については、第10条第1項に「ウォールの設置場所は、リード競技場及びボルダリング競技場とも室内とし、空調設備などで温度変化が少なくなるように留意する。ただし、当分の間、やむを得ず室外に設置しなければならない場合は、雨天でも問題なく競技を実施できるような構造とする。」の条項を新たに追加し、現規則第10条第1項6号、7号及び第10条第2項9号、12号は、削除する。附則に記載する施行日の決定については、競技部に一任することで承認され、

それ以外の改訂案は、提案通り承認された。

次いで森下常務理事より議案書に基づいて⑦国民体育大会山岳競技審判員及びルートセッター選考規則の一部改訂（案）について説明があり、承認が諮られた。

第4号議案の⑦国民体育大会山岳競技審判員及びルートセッター選考規則の一部改訂（案）については、第3条第2項3号は、現規則通りとし、それ以外の改訂案は、一部訂正で提案通り承認された。

(5)第5号議案 国民体育大会山岳競技競技運営員規程及び国民体育大会山岳競技競技運営員規程に関する内規の一部改訂（案）について

森下常務理事より議案書に基づき、平成26年度第1回理事会（5月10日開催）で指摘された箇所を修正した説明がなされ、承認が諮られた。

第5号議案は、提案通り承認された。

## 報 告

(1)業務執行理事の管掌業務と理事会報告について

尾形専務理事より資料に基づき、平成26年度の業務執行理事の管掌業務の確認と理事会に於ける業務執行理事の職務執行の状況報告の在り方について報告がなされた。

(2)次回理事会について

次回理事会（第3回）は、平成26年11月9日（日）に開催する。

(3)その他

中島監事より、理事は全ての業務を監督する責務がある。平成26年度は赤字にならないように予算統制をするなどして、業務を執行して貰いたい。と述べられた。（出席者）理事：神崎忠男、八木原罔明、國松嘉仲、

佐藤旺、尾形好雄、小野寺齊、西内博、仙石富英、森下健七郎、京才昭、水島彰治、瀧本健、青木秀則、相良忠磨、北村憲彦、小野倫夫、高橋時夫、小宮山稔、永山義春、亀井正明、伊藤克己、小林弘之、宮崎良平、多田修、以上24名、監事：内藤順造、岡本忠良、中島正喜、以上3名（欠席者）増山茂理事（同席者）西原斗司男競技運営委員長

## 全国「山の日」制定協議会 勉強会・総会

5月28日に東京千代田区の衆議院憲政記念館で全国「山の日」制定協議会の勉強会と総会が開催された。

5月23日に参議院本会議で8月11日を「山の日」とする祝日法改正案が賛成多数で可決され、平成28年1月1日から施行される事になった。このタイミングでの開催だったため、祝賀ムードでの勉強会・総会となった。

勉強会は、第1部は「山の安全を考える」のテーマで、警察庁生活安全局の富田邦敬地域課長から「山岳遭難の現状について」、日本山岳ガイド協会の角谷道弘理事から「最近の登山装備と安全」について報告があった。次いで超党派「山の日」制定議員連盟の務台俊介事務局長から「山の日」法案の現状」として法案成立までの経緯が報告された。

第2部は「山と水と人 山の恵みを考える」のテーマで、埼玉県飯能市で林業を営む井上淳治氏が「江戸を支えた西川林業の歴史 現在から未来へ」、国土交通省水管理国土保全局の越智繁雄水資源部長が「日本の川から山を見る」、日本ロングトレイル協議会の中村達代表委員が「日本のロングトレイル考」をそれぞれ報告。最後に長野県の阿部守一知事が「長野県の山の日制定について」の報告があり、勉強会は終了。

続いて総会に移り、冒頭、谷垣禎一会長が「山の日」の祝日化が成立した事について協力を頂いた関係各位に謝辞を述べられた。

総会の議事は以下の通り。

第1号議案 規約の改訂について

第4条（事業）の条文改訂が提案され、異議なく承認された。

第2号議案 事業の中間報告と今後の活動について  
提案通り、異議なく承認された。

第3号議案 収支中間報告と予算の修正案について  
提案通り、異議なく承認された。

最後に「山の日」が制定されたのだから名称から「制定」を外すべきではないか、と提案があり、協議会の名称を『全国「山の日」協議会』とすることで承認され、閉会となった。（記 尾形好雄）



日時 平成26年4月24日(木)  
18時～21時  
場所 岸記念体育会館504会議室  
出席者 神崎会長、佐藤副会長、尾形専務理事、小野寺、西内、仙石、森下、京オ、水島、瀧本、青木各常務理事、中島監事  
委任 八木原・國松副会長(常務理事13名中12名出席)

### 1. 専門委員会動静

4月常務理事会以降  
(4月11日～4月23日)

#### [報告]

- (1)自然保護委員会  
4月15日(火) 出席者13名  
ア 3月常任委員会議事録確認について  
イ 山岳団体自然環境連絡会(3/28)報告  
ウ 山と自然の聖地研究会(3/17)報告  
エ ニュースレター(26年春号)の発行について  
オ 「指導員の手引き」改訂版発行について  
カ 環境省自然公園指導員功労表彰候補の推薦について  
キ 常任委員研修会について  
ク 6/14～15、御岳山ビジターセンター第38回自然保護委員総会について  
ク 第39回自然保護委員総会の開催地について  
ケ 第3回関東地区自然保護交流会について  
ク 10/18～19、那須周辺  
(2)競技部合同委員会  
4月17日(木) 出席者12名  
ア 平成26年度競技部総会議事録承認について  
イ ブロック別研修会の実施要項と日程について  
ウ 国体山岳競技施設への取り組みについて  
エ B級審判以上のユニフォーム購入について  
オ 新年度会議日程と常任委員につ

- いて  
カ 新年度の事業担当者について  
キ 選手登録規程の改訂について  
ク トップアスリートの国体参加者の特例処置について  
ケ 4月常務理事会報告  
コ クライミング・日本ユース選手権2014ミレーカップ報告  
サ 第9回山岳スキー選手権大会報告  
シ IFSCクライミングWC2014印西大会進捗状況について  
ス 国体後催催の準備状況について  
・長崎県(26年):第1回基準会議(5/17～18)、第2回基準会議(6/6～8)  
(3)指導・競技合同委員会  
4月21日(月) 出席者9名  
ア SC指導員養成講習会の免除項目について  
イ 今後のSC指導員養成講習会の進め方について  
ウ 主任検定員養成講習会について  
エ SC指導員義務研修会について

- オ コーチのカリキュラム再検討について  
(4)ジュニア・普及委員会  
4月22日(火) 出席者3名  
ア なすかし雪遊び隊2014の反省  
・参加募集方法、活動プログラム、予算、次回以降の期日(3/27～28で固定)等を協議  
・報告書は5月中に発送予定及びHPにアップ  
イ 立山ジュニア登山教室2014について  
・日程、募集人員、奥大日岳コースを追加、予算案、募集開始時期等を協議  
ウ 全日本登山大会、中中年安全登山指導者講習会について

### 2. その他の重要事項

(4月10日～4月23日)

#### [報告]

- (1)印西市長表敬  
4月15日(火) 於:印西市  
森下常務理事  
(2)会計監査 4月15日(火)～16日(水)  
於:岸記念体育会館 内藤・岡本・中島監事、尾形専務理事、小野寺常務理事、相良理事

## 寄贈図書

寄贈本	(公財)日本陸上競技連盟	「ヘルシーアスリートをめざして2014」
寄贈本	(公財)日本陸上競技連盟	「クリーンアスリートをめざして2014」
雑誌	山と溪谷社	「山と溪谷」No.950 2014 June
雑誌	東京新聞出版部	「岳人」No.804 2014 JUNE
雑誌	NPO日本トレーニング指導者協会	『JATI EXPRESS』謹呈
雑誌	兵庫県山岳連盟	「兵庫山岳」第563号
雑誌	横浜山岳会	「月刊山」983号 2014年5月
雑誌	(一財)日本万歩クラブ	「帰れ自然へアルク」2014 6・7
雑誌	福岡山の会	「せふり」No.362
雑誌	(公財)健康・体力づくり事業財団	「健康づくり」No.433 2014.5
雑誌	中華民国山岳協会	「中華山岳」240
雑誌	(公財)全国高等学校体育連盟登山専門部	「平成25年度 部報」No.57
雑誌	(公財)全日本ボウリング協会	「JBC news」第510号
雑誌	(公財)日本武術太極拳連盟	「武術太極拳」No.295
雑誌	(公財)日本体育協会	「SPORT s JAPAN」2014 5.6 vol13
雑誌	(公財)日本体育協会	「体協スポーツニュース/体協フェアプレイニュース」2014年5月12日号
雑誌	日本勤労者山岳連盟	「登山時報」No.472 2014.6
雑誌	中国登山協会	「山野 中国戶外」2014.5 189
雑誌	(株)スクールパートナーズ	「高校生新聞・高校生スポーツ」5月合併号
雑誌	Korean Alpine Federation	「大山聯」Vol.185 2014 May
雑誌	(公社)日本山岳会	「山」5月号 No.828
雑誌	おいらく山岳会	「山行手帖」No.654 '14.6
雑誌	東京野歩路会	「山嶺」Vol. 91 No.1011
雑誌	日本山岳写真協会	「日本山岳写真協会ニュース」第411号 5月号
雑誌	(公社)日本山岳会自然保護委員会	「木の目 草の芽」第110号
雑誌	FEEC	「VERTEX」No.253

- (3)平成26年度東京都高体連登山専門部総会 4月19日(土)  
於：明大附属中野高校 神崎会長
- (4)2013年度ミズノスポーツメントール賞、スポーツライター賞表彰式  
4月22日(火) 於：グランドプリンスホテル新高輪  
神崎会長、尾形専務理事
- (5)日体協加盟団体事務局長会議  
4月23日(水) 於：渋谷シダックスホール 尾形専務理事
- (6)会計監査 4月24日(木)  
於：岸記念体育会館 内藤・岡本・中島監事、尾形専務理事、小野寺常務理事、相良理事

### 3. 議事

- (1)平成26年度4月常務理事会議事録の承認について(承認)
- (2)平成26年度理事会(第1回)議案について(承認)
- (3)平成25年度事業報告(案)について(総括を記載することで承認)
- (4)平成25年度収支決算(案)について(承認)
- (5)未収入金の損金処理について(承認)
- (6)選手登録規程の改訂について(条文の訂正を指摘された改訂案を再度、回議することで承認)
- (7)国体山岳競技規則の改訂について(承認)
- (8)国体山岳競技競技運営員規程の改訂について(一部確認条文を含めて承認)
- (9)「山の知識検定(ヤマケン)」公認名義について(公認名義料の交渉結果で承認)
- (10)報告  
ア 「山の日」制定の経過報告  
イ WG報告  
ウ 平成26年度競技部委員総会報告  
エ 第60回長崎国体組合せ抽選会実施内容について

- オ 平成26年度競技部ブロック別研修会開催について
- カ 平成26年度山岳共済会事業報告及び収支決算について
- キ みんな集まれ!ジュニア登山教室 in 立山2014の予報について

### 4. 役員等の派遣について

- (1)第4回アジアビーチゲームズ日本代表選手団派遣手続き説明会  
5月7日(水) 於：岸記念体育会館 理事・監事室 中川事務局員
- (2)平成26年度理事会(第1回)  
5月10日(土) 於：岸記念体育会館101~103号室  
神崎会長ほか理事・監事
- (3)WG全体会議 5月11日(日)  
於：岸記念体育会館505号室  
神崎会長ほか
- (4)平成26年度神奈川山岳連盟代議員会 5月20日(日)  
於：神奈川県立スポーツ会館  
神崎会長
- (5)平成26年度定時総会  
5月25日(日) 於：岸記念体育会館 神崎会長ほか正会員・理事・監事・委員長・顧問
- (6)平成26年度東京都山岳連盟総会  
5月27日(火) 於：国立オリンピック記念青少年総合センター  
神崎会長
- (7)平成26年度公認スポーツ指導者育成事業事務担当者会議  
5月28日(水) 於：渋谷シダックスホール 小野寺・瀧本常務理事、蛭田副委員長
- (8)平成26年度指導委員総会  
6月7日(土)~8日(日) 於：海員会館(晴海)  
佐藤副会長、瀧本常務理事
- (9)第28回リード・ジャパンカップ  
6月7日(土)~8日(日) 於：長崎・大村市 神崎会長、國松副会長、森下常務理事
- (10)平成26年度国際委員総会・海外

- 登山遭難対策研究会  
6月14日(土)~15日(日) 於：長野県山岳総合センター  
八木原副会長、澤田委員長
- (11)スポーツ安全協会評議員会  
6月26日(木) 於：東海大校友会館 神崎会長
- (12)好山会創立60周年記念祝賀会  
6月28日(土) 於：サンパール荒川  
佐藤副会長、尾形専務理事、小野寺常務理事
- (13)平成26年度遭難対策委員総会  
6月28日(土)~29日(日)  
於：いこいの村足柄  
西内常務理事

### 5. 後援、協賛等の依頼について

- (1)百万人の山と自然「安全のための知識と技術公開講座」の後援名義(日本山岳ガイド協会主催)(承認)
- (2)第15回KAZOクライミングカップ2014(埼玉県山岳連盟主催)(承認)

### 6. 報告

- (1)指導員の認定承認  
①AC指導員  
四戸岳也、鎌田芳弘、長畑重弘(以上、岩手3名)(承認)

## 編集後記

昨年の富士山入山料に続き、自民党環境部会で入域料なるものが「受益者負担」の元に検討され、法案化を目指している(毎日、読売、朝日)。遭難事故の多発を受け岐阜県では登山届の条例化を検討中とか。山岳諸団体は「山の日」が祝日に制定された今、山岳を含む自然公園とのかかわりについて、多様な規制前に統一されたアピールをすべきだと思う。例えば「入山規則やマナー」の広報用集作成など。(広報担当 水島彰治)

### 登山月報 第543号

定価 110円(送料別)  
 予約年間 1,300円(送料共)  
 昭和45年12月12日  
 第三種郵便物認可  
 (毎月1回15日発行)

発行日 平成26年6月15日  
 発行者 東京都渋谷区神南1-1-1  
 岸記念体育会館内  
 公益社団法人日本山岳協会

電話 03-3481-2396  
 F A X 03-3481-2395

### NPO法人 北丹沢山岳センター

事務局 〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1  
 TEL 042-687-4011 FAX 042-687-3980  
 E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp

蛭ヶ岳山荘 TEL:090-2252-3203(衛星電話)

神の川ヒュッテ TEL:042-787-2276

和田峠「時の茶屋」TEL:042-687-2882

理事長・代表 杉本憲昭

### NPO法人 北丹沢山岳センター

事務局 〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1  
 TEL 042-687-4011 FAX 042-687-3980  
 E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp

- 北丹沢12時間山岳耐久レース実行委員会
- 陣馬山トレイルレース実行委員会
- 八重山トレイルレース実行委員会
- 東丹沢宮ヶ瀬トレイルレース実行委員会

大会会長 杉本憲昭



## 『少年少女登山教室』申請受付中

既にご案内の通り、平成26年度もジュニア育成事業として『少年少女登山教室』を委託実施します。小中学生の若年層に、登山を通じてスポーツとしての登山及び人と自然の関わりの素晴らしさを体験させる事業を奮って応募してください。本年度も日本山岳遺産基金より助成金を交付していただきましたので、助成金総額は200万円です。

なお、日本山岳遺産基金では、『少年少女登山教室』の活動にあたっての参加者募集告知や、結果レポートなどを、同基金が関連する電子雑誌『週刊ヤマケイ』の「日本山岳遺産基金コーナー」等で掲載することが可能とのことですので、詳細は山と溪谷社、電話03-6744-1912(担当=久保田・吉野)までお問い合わせください。

### 日本山岳遺産基金

<http://sangakuisan.yamakei.co.jp/>

### 週刊ヤマケイ

[http://www.yamakei.co.jp/weekly\\_yamakei](http://www.yamakei.co.jp/weekly_yamakei)

## 参加者募集中! みんな集まれ!ジュニア登山教室 in 立山

日本を代表する山々がそびえる北アルプス、雪渓の白と高山植物に彩られた美しく雄大な立山の自然を体感し、自然環境について考えてみませんか。「立山青少年自然の家」にみんな集まれ!!

【とき】8月17日(日)~20日(水)(3泊4日)

【ところ】国立立山青少年自然の家(富山県立山町)

【募集】小学校4年生から中学校1年生ぐらいまでの30名(先着順)

【参加費】こども18,000円(現地バス代、保険料、宿泊食事3泊9食代等)

※現地までの交通費は各自負担。

送迎バス(東京発)利用は、往復8,000円

### 【申込み・問合せ】

(公社)日本山岳協会 事務局

〒150-8050 東京都渋谷区神南1-1-1

TEL:03-3481-2396 FAX:03-3481-2395

【締切り】7月22日(火)

立ちどまらない保険。

MS&AD

三井住友海上



## 安心を売る仕事。

嵐の日でも 晴れの日も。  
つらいときも うれしいときも。  
わたしはあなたを見守っています。

わたしがあなたに  
売っているのは「安心」です。

安心できれば 挑戦できます。  
だからあなたは  
夢に向かって  
進みつづけてください。

どんなことが起きても  
わたしはあなたの味方です。

**MS** 私は  
三井住友海上の  
agency 代理店です。

[www.ms-ins.com](http://www.ms-ins.com)



# あなたの保険は、 安心して登山ができる保険ですか。

救助費用はタダではありません。  
山岳保険の加入は登山者のマナーです。

## ■平成24年山岳遭難の概況

(警察庁生活安全局地域課 平成25年6月13日)

発生件数 **1,988** 件 (前年対比 158 件増)

遭難者数 **2,465** 人 (前年対比 261 人増)

死者・行方不明者 **284** 人 (前年対比 9 人増)

詳しくは → <http://www.sangakukyousai.com>

お問い合わせは

**日本山岳協会 山岳共済会**

事務委託：日本山岳協会山岳共済事務センター  
月～金 10:00～17:00 (土・日・祝日除く)

〒170-0013 東京都豊島区東池袋 3-7-11-707

TEL: 03-5958-3396 FAX: 03-5958-3397

E-mail: [sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp](mailto:sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp)

U R L : <http://sangakukyousai.com>